

水田畦畔における草刈りと抑草剤散布の併用による シバ (*Zoysia japonica* Steud.) 優占植生への誘導

川西孝秀・垣内 仁・森本哲矢¹・橋本仁一²・小林正典³

和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場

²財団法人 日本植物調節剤研究協会

³クミアイ化学工業(株)

Inducement to the *Zoysia japonica* Dominate Vegetation by Mowing and Spraying the Plant Growth Retardant in Paddy Levees

Takahide Kawanishi, Jin Kakiuchi, Tetsuya Morimoto¹, Jinichi Hashimoto² and Masanori Kobayashi³

Agricultural Experiment Center, Wakayama Research Center of Agriculture Forestry Fisheries,

²*The Japan Association for Advancement of Phyto-Regulators*

³*Kumiai Chemical Industry Co., Ltd.*

摘 要

シバ‘ヒメノ’を被度30%で植栽した畦畔法面では、年4回草刈り+抑草剤(ビスピリバックナトリウム塩3%液剤; 50 ml/a)散布により、慣行の年4回草刈りに比べてシバの被覆速度が速まり、シバの誘導が可能であることが明らかになった。

シバが被度30%で混在する既存畦畔法面では、年4回草刈り+抑草剤散布により、シバの被度が2年で約80%となり、慣行の年4回草刈りに比べて顕著にシバが優占化することが明らかになった。

シバが被度約80%で優占植生となった畦畔では雑草の発生量が少なく、草刈りの回数を慣行の年4回から2回に減らすことができた。また、年2回の草刈りでシバの被度はほぼ維持できることが示唆された。

¹現在：和歌山県農林水産部農業環境保全室